学校・保育所のあり方地域説明会と町政懇談会

意見・質疑応答の概要

日　時	令和６年８月２日（金） 18:30～20：00			会　場	沢内庁舎
参加者	12 名	町出席者	町長、副町長、教育長、 学務課長、石川代理、祐征主査、里子主任、 企画財政課長、刈田代理		

○学校・保育所のあり方地域説明会

番号	質疑・意見	応　答
1	（左草　男性） 　今までいろんな話し合いが持たれてきていて、保育所や中学校、小学校に関して、統合をするのがいいのか、地域に残していったらいいのかを考えていたんですけど、現状はちょっとわからなくなっていて、でもこうやって話し合いを持ってみると、どっちになっても大丈夫だなというふうに、今は思うようになりました。 　西和賀は他の地域に比べると、大きな予算をかけないとできないような自然を生かした子育て環境が、ある意味当たり前にできるような場所でもあるので、ただそれが町の強みだっていうふうに認識した子育てができていけるんであれば、どっちになっても大丈夫かなと思いました。 　ただ統合したときにも保育所とか小学校中学校がなくなった地域は、その後も続いていくわけで、地域をどう残していくかという部分は、町としてどういうまちにしていくのかっていう大きなビジョン	（教育長） 　地域にとって学校はすごく大きな存在ですし、文化の拠り所でもある。いろいろ迷うところはあるが、良さを取り入れて、そこにしっかりとしたコンセプト、頼りになるものがあればやっていけると思っており、今コンセプト作りをしているところ。 　この後は町の人たちと、どうやって学校を作っていけるかという議論をして、そこからまた方向性を見つけられたらいいかなと思っているところです 　中学校の子供たちに１学期が終わる前にアンケートをとらせていただきました。数だけで言えば、「統合してみんなと一緒にいろんなものを作り上げたい」というのが 28 人、「それぞれの文化を残してお互いに交流してやっていった方がいい、だからそれぞれであった方がいい」というのが 50 人ということで、統合と現状で１対２の割合になっています。 　ただ、それぞれの良さは良さで

	を町民と自分たち含めてみんなと共有していくことができれば、これからどんどん人口が減っていくのは仕方がないと思うんですけれども、良い町になっていくと思っています。 人口減少で園児の数とか児童数が減っていくことと、あと施設の老朽化っていうことが原因としてあるというふうに認識してるんですけれども、それは仕方がないことだと思いますし、そういうネガティブな要因で統合していく、縮小していくっていうよりは、もうちょっとこれから人口が減っていく町を、良くしていくためにっていうふうに町民みんなとの話し合いを進めていけたらいいなと思いました。	残して統合して更なるものを作りたいという子もいれば、地域の人たちともっともっと深まりや連携しながら自分たちの学校を作っていきたいというような、どっちも同じような立場で結果が違うということで、これは子供たち同士についても議論が必要だなと思うところでした。 現状をお話しさせていただきました。
2	（太田　男性） 地域から学校が無くなるという事は非常に大変な事です。 実は私は太田小学校の時に新町と統合して、卒業証書は沢内第一小学校で終えました。 その後は合併後の統合。その際も喧々諤々、通学の関係で遠いとか近いとか、地域のエゴや綱引きがありました。これからそういう話も出てくると思います。 教育振興等で学校と地域が一体だった時代があった。運動会でもいろいろなプログラムがあって地域との関りが大きかった。 この間、小学校の運動会に行ってきたが、コロナもあったりして、プログラムも全然変わってしまって、どちらかというと地域との関りがほぼ無くなってきているよう	（教育長） よく言われるのが、平成17年度に合併してから、まだ西和賀は二つで分裂している傾向があるとか言われる方もいる。私はそうは思っていません。子供たち自身は、そういう壁はもう既になくなってきている。 保育所から中学校までの15年間は、生まれた場所に出来るだけ近い場所で学ばせてあげたい。沢内中学校では深澤村長やおよね、藤原長作さんのお米の話しなど、地域の財産は残したいと思っている。みんな一緒にそこから学ぶことは沢山ある。湯田には湯田の特色がある。やはり力強くそれぞれの特色は出していきたいと思っている。どのような形で残していくかは、皆さんと力を合わせてやっ

	に見受けられた。正にこれからはコンセプトが大事だと思います。 　今日はいろいろ意見を聞いて、それらを踏まえて決定するというお話しでしたが、先日の議会だよりで町のグランドデザインという話もあった。町は少子化に対してどういうことをしていく、まちづくりや、こんな教育環境にしたいというのを具体的にあらかじめ出していただいてから懇談会をもっていただいた方が、より具体的な意見が出ると思います。 　広く色んな話を聞いて反映させると言いますけれども、結局経済的な事とか、人口減少は現実です。あらかじめデザインはあると思うんです。言葉は悪いがアリバイ作りでやっていくというよりも、正攻法でこういう感じにしたいというグランドデザインを出していただいて、それについていろんな事を出していただいた方が、私はより煮詰まった方向性ができると思います。	ていきたいと思っている。 　また、沢内小、中学校の校舎も待ったなしになっていて、残された時間との戦いを今しているつもりでおります。

○町政懇談会

番号	質疑・意見	応　答
1	（上野々　男性） 　私はこの町に越してきて６年目で、過去の学校の統合の話しとか町村合併の話は伝え聞くだけです。今後町の置かれている状況というのはすごく厳しいものだと思うし、学校をどうするんだという話もしなきゃいけないけれども、その時に大事なのは、行政と住民の間でのラリーと言うか、ポンポン打ち返し続けるようなやり取り	

	をある程度の期間続けることが大事なんじゃないかと思っている。 それに当たって町の方から固まった案を出すっていう形でもいいし、もしくは情報提供として職員がどういうものを先進事例として見ているだとか、県内でこういう事例があるぞみたいなのをどんどん出してくれれば、いろいろと考え易いんじゃないかなと。ただそういう形式でやると住民も大変だと思います。なんでこんなにいろいろ情報を出されて考えなきゃいけないんだ、というふうに感じられる人もいるかなと思うんですけど、そういうやり取りを続けていくっていうのが、施設なりができた後も続けていかなきゃいけないことだと思うし、そういうふうにできればいいと思ってますし、私自身そういうお手伝いができればいいなと思ってます。	
2	（太田　男性） 葬儀の際の飯台供養、コロナもあってやらなくなって、集まる機会も減ってきたが、今はやれる場所が無い。以前はバーデンでやれた。 また、会議の際は消防署にばかり行っているが、町に１つくらい50 人程度が集められる会議室があっても良いのではないか。 町長が立候補するときに沢内バーデンのあり方について話されていた記憶がある。沢内バーデンをもう少し葬祭の場などで使える方向に目指していただけないものかと思っています。	（町長） 沢内バーデンについて今の状況を申し上げると、なんとか閉ざさないようにという事で、産業公社に年間 2,800 万かけてやっていただいております。 会議等の利用も前と同じようにできます。宿泊もまだ許可をもらっているのでできなくは無いんですが、コロナ等の影響もあり、再開する時にはハードルがあります。 施設もある程度お金をかければできなくはないと私は考えておりますが、ポイントはエステックを精算した訳ですが、そうした経過というのは経営的にもう町の負担では無理だという一旦結論が出さ

		れて今の状態になっています。 　ですので単純に前と同じようには無理ですし、一度行政として判断した事項ですので、やる場合には非常に大きなハードルがあります。そこで問題なのは、どういうふうに運営していくか、運営していく方があれば可能性を探りたいということで、今はなんとか途絶えさせないようにやっているような状況です。 　そういう方向については、今回の計画の施策上の一つの大きな課題になってくると思いますので、もう少しお時間をいただいて、今のようなご意見をいただきながら検討したいと思いますが、ただ状況は、葬祭のお話しもありましたが、コロナを経てかなり変わっている実態もあるかと思います。その辺をしっかり見極めさせていただきながら、恐縮ですがもう少しお時間をいただいて方向付けさせていただきたいと思っております。
3	（太田　男性） 　料理等、出張販売してくれる業者が今は結構ある。 　仮に業者が沢内バーデンの場所を提供してくれれば、法事の際の飯台供養をやってくれるというような場合に、バーデンの使用は可能ですか。	（町長） 　現にやっております。 　今の実態でいうと、自分たちで手配してやってもらっています。 　産業公社が業者を手配したり、全部段取りしてというのは、体制もありますし厳しいです。
4	（新町　男性） 　町の総合計画をこれから立てていくということで、個人的には住民の、住んでる人を第一に考えた計画だけでも十分かなと思っていて、いろいろインターネットとか	（副町長） 　ありがとうございます。ご意見として承ります。

	探すと、魅力的な発信の方法とかあるんですけれども、まず第一に住んでる人の不便さを聞いてそれを解決していくとか、町外に向けた計画というよりも内側に向けた住民の不便さを解決する、そういう当たり前のサービスがこの町でも受けられるとか、そういうところを大事にした計画を作っていただけたらいいかなと思っています。	
5	（猿橋　女性） 　おでかけバスをかなり利用している方を見かけます。オセンとかで買い物した時に結構待つ時間がある。その時にお菓子屋さんの前とか、バス停の前とかで荷物を背負って暑い中立っていたり雨が降ったり、冬も厳しそうです。 　停留所にベンチとか、小さなお家というか待合所が設備されれば、バスを待つ人は便利だと思うので、検討していただければと思います。	（企画財政課長） 　バス待合場所のご意見ありがとうございます。ご意見として承ります。
6	（太田　女性） 　旧沢内病院の近くで生活してるんですが、旧沢内病院は結構壊れているところがあるのを町の職員はご存じなのかといつも思いながら見ています。山に山菜を取りに病院の脇を通っていくと、配管が落ちていたり、車庫のトタンが飛びそうになっていたり、救急車の入るところの屋根がひしゃげていたり、というところを見ると悲しくなるというか。 　空き家対策で住民に働きかけているところもあると思うが、町の施設の壊れているところとか、使	（副町長） 　町の施設で使わなくなった施設については解体の方向で進めていきたいと思っております。ただ、旧第一小学校、旧貝沢小学校、旧病院、オアシス館等、結構解体費がかかる大きな施設もありまして、それらをどういう形で解体していくのかということを検討しております。解体費用で結構お金がかかる部分があることから、考え方の整理をしながら、どこから着手するとか、どういう財源で行うとかというのを検討したうえで進めたいと思っています。

	われなくなった旧第一小学校も雨漏りしていて、そういうところをどうしていくのかというところも考えていただければ良いと思います。	町で活用しないと確定したことになれば、それは解体していくという方向に向かっていかなければならないものと認識している。 また、そういった施設で何かが飛んで行って他のところに影響するなどは非常に良くないので、そういう部分の管理はしっかりしていかなければならないと思っております。ご意見ありがとうございます。
7	（太田　男性） （使用しない施設は）定期的に見て回っているものか。	（副町長） 担当課で管理している。解体が着手されるまでは引き続き管理は必要と思っています。